

RENESAS TECHNICAL UPDATE

〒211-8668 神奈川県川崎市中原区下沼部1753
 ルネサス エレクトロニクス株式会社
 問合せ窓口 <http://japan.renesas.com/contact/>
 E-mail: csc@renesas.com

製品分類	MPU & MCU	発行番号	TN-16C-A223A/J	Rev.	第1版
題名	R32C/118グループ ユーザーズマニュアル ハードウェア編の誤記訂正		情報分類	技術情報	
適用製品	R32C/118グループ	対象ロット等	関連資料	R32C/118グループ ユーザーズマニュアル ハードウェア編 Rev.1.10 (RJJ09B0566-0110)	

R32C/118グループ ユーザーズマニュアル ハードウェア編 Rev.1.10において誤記がありましたので、以下のとおり訂正いたします。

〈訂正内容〉

•Page 65, 66, 79, 80 of 616

表4.36、表4.37、表4.50、表4.51のレジスタ名を以下のとおり訂正いたします。

CANi **アクセプタンス** マスクレジスタ k **【誤】**

CANi マスクレジスタ k **【正】**

•Page 68, 82 of 616

表4.39、表4.53のCiMSMRレジスタのリセット後の値を以下のとおり訂正いたします。

XXXX XX00b **【誤】**

0000 0000b **【正】**

•Page 98 of 616

図8.1を以下のとおり訂正いたします。

【誤】

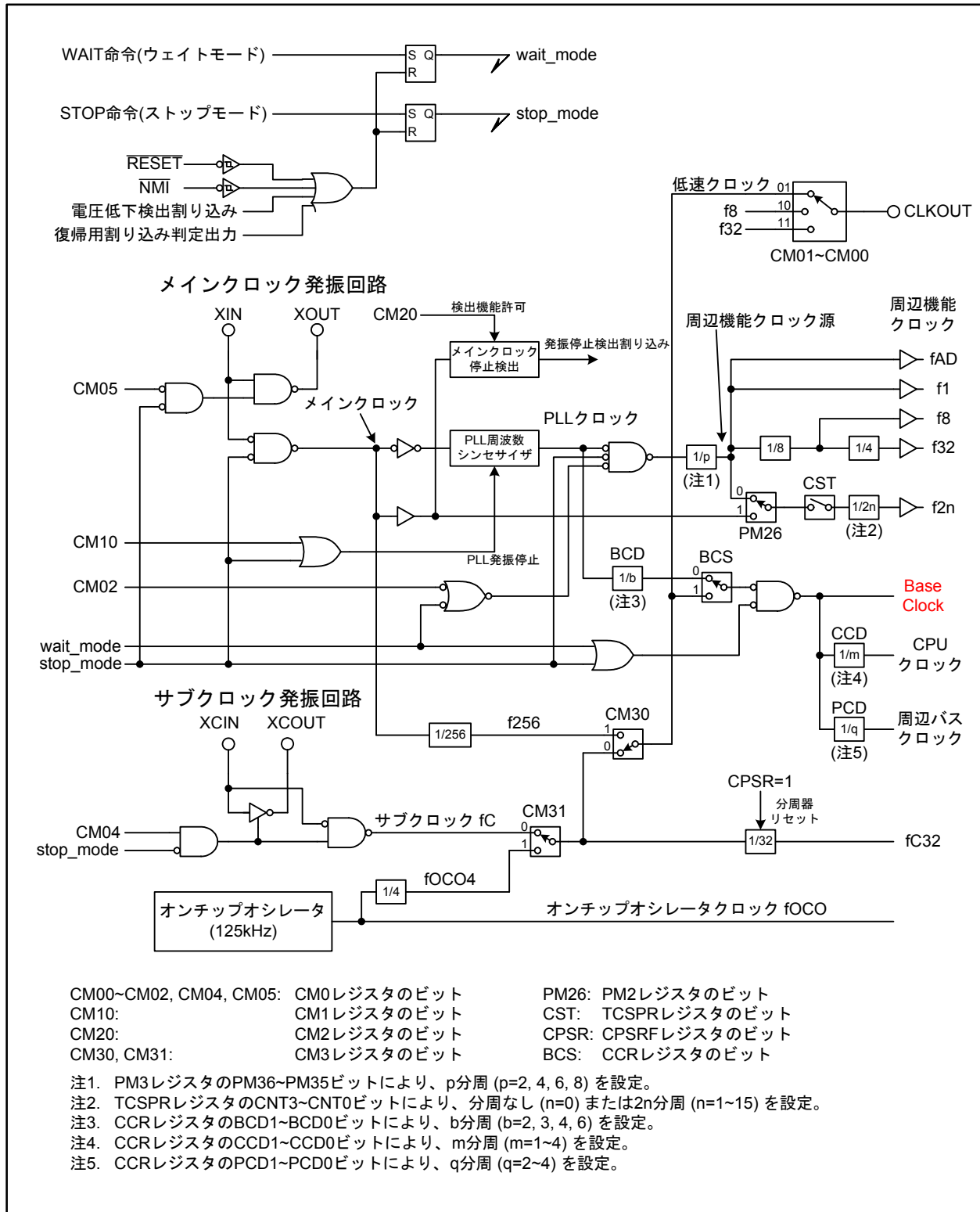


図8.1 クロック発生回路のブロック図

【正】

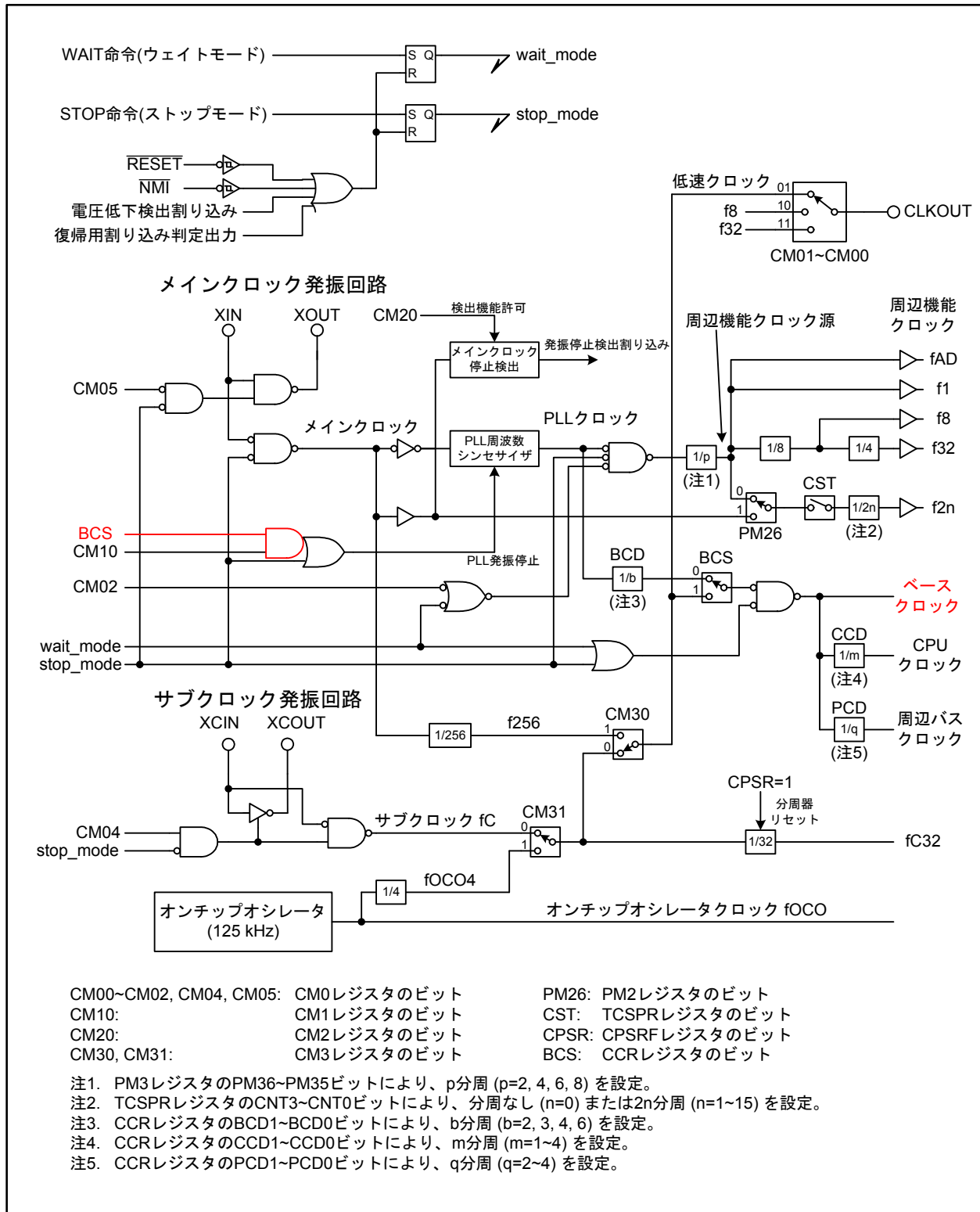


図8.1 クロック発生回路のブロック図

•Page 100 of 616

図8.3の注8の文章に以下のとおり追記いたします。

【誤】

注8. このビットはウォッチドッグタイマを動作させる前に設定してください。

【正】

注8. このビットはウォッチドッグタイマを動作させる前に設定してください。動作中に書き換える場合は、WDTSレジスタに書いた直後に実施してください。

•Page 101 of 616

図8.4の注2の文章を以下のとおり訂正いたします。

【誤】

注2. CCRレジスタのBCSビットが“0”(ベースクロック源はPLLクロック)の場合、CM10ビットを“1”にすることはできません。

【正】

注2. CCRレジスタのBCSビットが“0”(ベースクロック源はPLLクロック)の場合、CM10ビットを“1”にしてもPLL周波数シンセサイザの発振は停止しません。

•Page 130 of 616

9.3.1項の本文下部の数式を以下のとおり訂正いたします。

【誤】

- メモリ拡張モードの場合

$$0080000h < (CB23 \times 2^{18}) < (CB12 \times 2^{18}) < (CB01 \times 2^{18}) \leq 3DC0000h$$

- マイクロプロセッサモードの場合

$$0080000h < (CB23 \times 2^{18}) < (CB12 \times 2^{18}) < (CB01 \times 2^{18}) \leq 3FC0000h$$

【正】

- メモリ拡張モードの場合

$$0080000h \leq (CB23 \times 2^{18}) \leq (CB12 \times 2^{18}) \leq (CB01 \times 2^{18}) \leq 3DC0000h$$

- マイクロプロセッサモードの場合

$$0080000h \leq (CB23 \times 2^{18}) \leq (CB12 \times 2^{18}) \leq (CB01 \times 2^{18}) \leq 3FC0000h$$

•Page 133, 134 of 616

図9.7、図9.8、図9.9の設定範囲と注2を以下のとおり訂正いたします。

【誤】

•図9.7

メモリ拡張モード時: 04h~F8h

マイクロプロセッサモード時: 04h~FFh

注2. CB12レジスタの設定値より大きい値を設定してください。

•図9.8

メモリ拡張モード時: 03h~F7h

マイクロプロセッサモード時: 03h~FEh

注2. CB23レジスタの設定値より大きい値を設定してください。また、CB01レジスタの設定値より小さい値を設定してください。

•図9.9

メモリ拡張モード時: 02h~F6h

マイクロプロセッサモード時: 02h~FDh

注2. CB12レジスタの設定値より小さい値を設定してください。

【正】

•図9.7

メモリ拡張モード時: 02h~F8h

マイクロプロセッサモード時: 02h~FFh

注2. CB12レジスタの設定値以上の値を設定してください。

•図9.8

メモリ拡張モード時: 02h~F8h

マイクロプロセッサモード時: 02h~FFh

注2. CB23レジスタの設定値以上の値を設定してください。また、CB01レジスタの設定値以下の値を設定してください。

•図9.9

メモリ拡張モード時: 02h~F8h

マイクロプロセッサモード時: 02h~FFh

注2. CB12レジスタの設定値以下の値を設定してください。

•Page 152 of 616

図10.1の注1を以下のとおり変更いたします。

【誤】

注1. PRC2ビットは“1”を書いた後、任意の番地書き込みを実行すると“0”になります。他のビットは“0”になりませんので、プログラムで“0”にしてください。

【正】

注1. PRC2ビットは“1”を書いた後、任意の番地書き込みを実行すると“0”になります。

•Page 181 of 616

12章 計算式下の本文の一部を以下のとおり変更いたします。

【誤】

たとえば、CPUクロック周波数が**50MHz**で周辺バスクロック周波数がその1/2、プリスケータの分周値が16の場合、ウォッチドッグタイマの周期は約**21ms**となります。

【正】

たとえば、CPUクロック周波数が**64 MHz**で周辺バスクロック周波数がその1/2、プリスケータの分周値が16の場合、ウォッチドッグタイマの周期は約**16.4 ms**となります。

•Page 193 of 616

表13.5の外部バスのアドレスを以下のとおり訂正いたします。

【誤】

表 13.5 デバイスごとのバス幅およびバスサイクル数

デバイス名称	アドレス(注1)	バス幅	アクセスサイクル数(注2)	基準クロック
外部バス	000 6 0000h~01FFFFFFh FE000000h~FFDFFFFFFh	8/16/32 ビット	EBCnレジスタ(n=0~3) の設定値に依存(注5)	周辺バスクロック

【正】

表 13.5 デバイスごとのバス幅およびバスサイクル数

デバイス名称	アドレス(注1)	バス幅	アクセスサイクル数(注2)	基準クロック
外部バス	000 8 0000h~01FFFFFFh FE000000h~FFDFFFFFFh	8/16/32 ビット	EBCnレジスタ(n=0~3) の設定値に依存(注5)	周辺バスクロック

•Page 250 of 616

17.3 本文の3段落目の一部を以下のとおり削除いたします。

【誤】

また三相モード1では、タイマB2割り込みごとにカウンタへのリロード値がTAi、TAi-1(i=4,1,2)と入れ替わるため、タイマB2割り込みの頻度を半分に減らすことができます。**このモードではTAiレジスタ設定値とTAi1レジスタ設定値の合計がTB2レジスタ設定値と一致するようにします。**

【正】

また三相モード1では、タイマB2割り込みごとにカウンタへのリロード値がTAi、TAi-1(i=4, 1, 2)と入れ替わるため、タイマB2割り込みの頻度を半分に減らすことができます。

•Page 255 of 616

図17.17の注2を以下のとおり訂正いたします。

【誤】

注2. INV1レジスタのINV11ビットが“1”（三相モード1）の場合

【正】

注2. INVC1レジスタのINV11ビットが“1”（三相モード1）の場合

•Page 265 of 616

図18.7のUiIRSビットの機能欄を以下のとおり訂正いたします。

【誤】

0: UiTBレジスタ空 (TI=1)

【正】

0: 送信バッファ空 (TI=1)

•Page 278 of 616

図18.20の波形の名称を以下のとおり訂正いたします。

【誤】

UiC0レジスタのTXEPTフラグ

【正】

UiC0レジスタのTXEPTビット

•Page 278 of 616

図18.20の設定条件記載箇所の4項目目を以下のとおり訂正いたします。

【誤】

- UiC1レジスタ、U78CONレジスタのUiRSビット=0 (UiTBレジスタ空で割り込み要求発生)

【正】

- UiC1レジスタ、U78CONレジスタのUiRSビット=0 (送信バッファ空で割り込み要求発生)

•Page 331 of 616

図21.1を以下のとおり訂正いたします。

【誤】

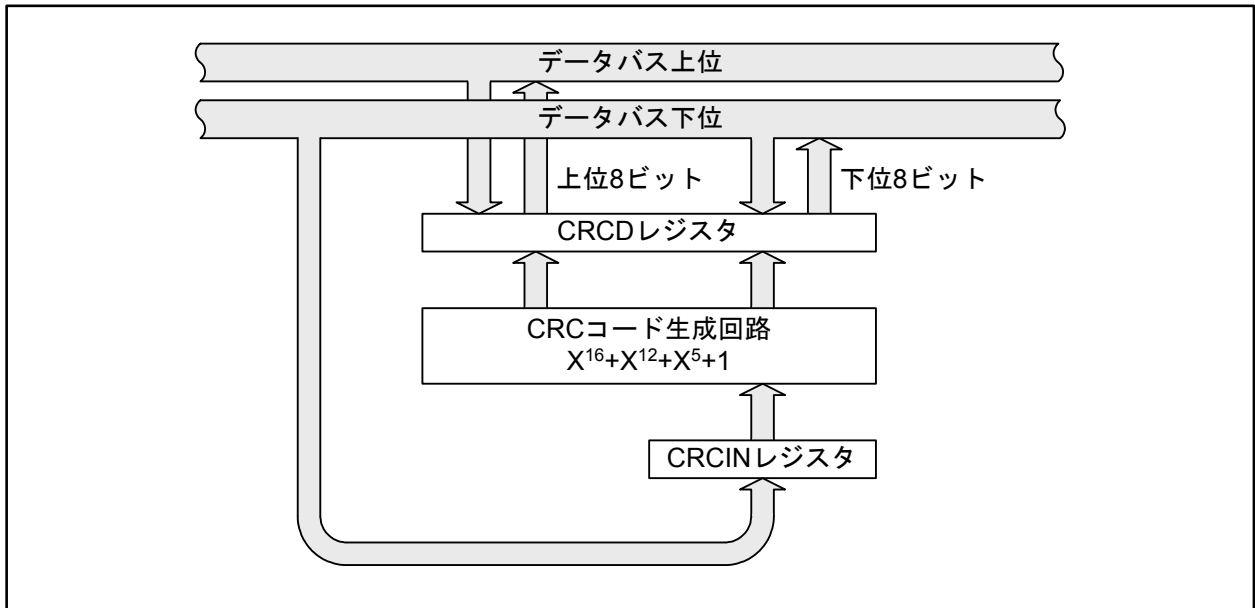


図21.1 CRC演算回路のブロック図

【正】

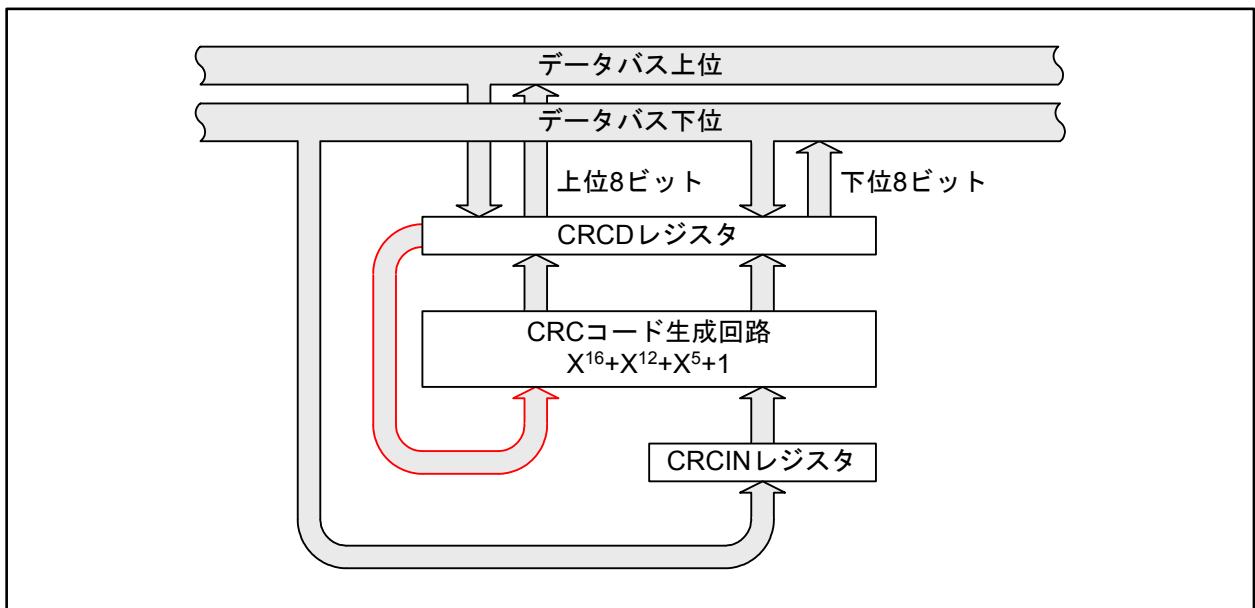


図21.1 CRC演算回路のブロック図

•Page 347 of 616

図23.9の注3を以下のとおり削除いたします。

【誤】

注3. ゲート機能解除後、GOCビットは“0”になります。

【正】

—なし—

•Page 402 of 616

24.1.8.5項 IRFビットが“1”になる条件の2項目目を以下のとおり訂正いたします。

【誤】

- I2CCCRレジスタにデータを書いたとき (WIT=1、内部WAITフラグ=1)

【正】

- I2CCCRレジスタにデータを書いたとき (RIE=1、内部WAITフラグ=1)

•Page 438 of 616

25.1.9.5項 本文の3段落目を以下のとおり訂正いたします。

【誤】

オーバーライトモードとオーバランモードの両方において、EOFの6番目のビットに続く fCAN (CANシステムクロック)の5サイクルの間は、MSGLOSTビットはプログラムで“0”を書いても“0”になりません。

【正】

オーバーライトモードとオーバランモードの両方において、EOFの6番目のビットに続く 周辺バスクロック 5サイクルの間は、MSGLOSTビットはプログラムで“0”を書いても“0”になりません。

•Page 442 of 616

25.1.10.3項 本文の3段落目を以下のとおり訂正いたします。

【誤】

オーバランモードとオーバーライトモードのどちらも、受信FIFOがフルでメッセージの受信が決定している場合、ハードウェアプロテクトにより EOFの6番目のビットに続く fCAN (CANシステムクロック)の5サイクルの間は、プログラムで“0” (受信FIFOメッセージロスト未発生) になりません。

【正】

オーバランモードとオーバーライトモードのどちらも、受信FIFOがフルでメッセージの受信が決定している場合、ハードウェアプロテクトにより EOFの6番目のビットに続く 周辺バスクロック 5サイクルの間は、プログラムで“0” (受信FIFOメッセージロスト未発生) になりません。

•Page 452 of 616

図25.19の(b6-b5)の機能欄から以下のとおり文章を一部削除いたします。

【誤】

何も配置されていない。書く場合、“0”を書いてください。

読んだ場合、その値は“0”

【正】

何も配置されていない。読んだ場合、その値は“0”

•Page 472 of 616

25.2.3項 本文を以下のとおり訂正いたします。

【誤】

CANスリープモードは、CANモジュールへのクロック供給を停止することによって、消費電流を低減するためのモードです。MCUのハードウェアリセットまたはソフトウェアリセット実行後、CANスリープモードから動作を開始します。

【正】

CANスリープモードは、CANモジュールへのクロック供給を停止することによって、消費電流を低減するためのモードです。MCUのリセット後は、CANスリープモードから動作を開始します。

•Page 475 of 616

図25.36のPCDビット部のqの値を以下のとおり訂正いたします。

【誤】

q=1, 2, 3, 4

【正】

q=2, 3, 4

•Page 487 of 616

26本文の2段落目を以下のとおり訂正いたします(TN-16C-A200A/J参照)。

【誤】

また、端子4本ごとにプルアップ抵抗の有無を選択できます。プルアップ抵抗は端子が出力になっている場合と、アナログ入出力になっている場合には、レジスタの設定内容にかかわらず切り離されます。

【正】

また、端子4本ごとにプルアップ抵抗の有無を選択できます。プルアップ抵抗は、端子が出力になっている場合には、レジスタの設定内容にかかわらず切り離されます。

•Page 487 of 616

図26.1を以下のとおり訂正いたします(TN-16C-A200A/J参照)。

【誤】

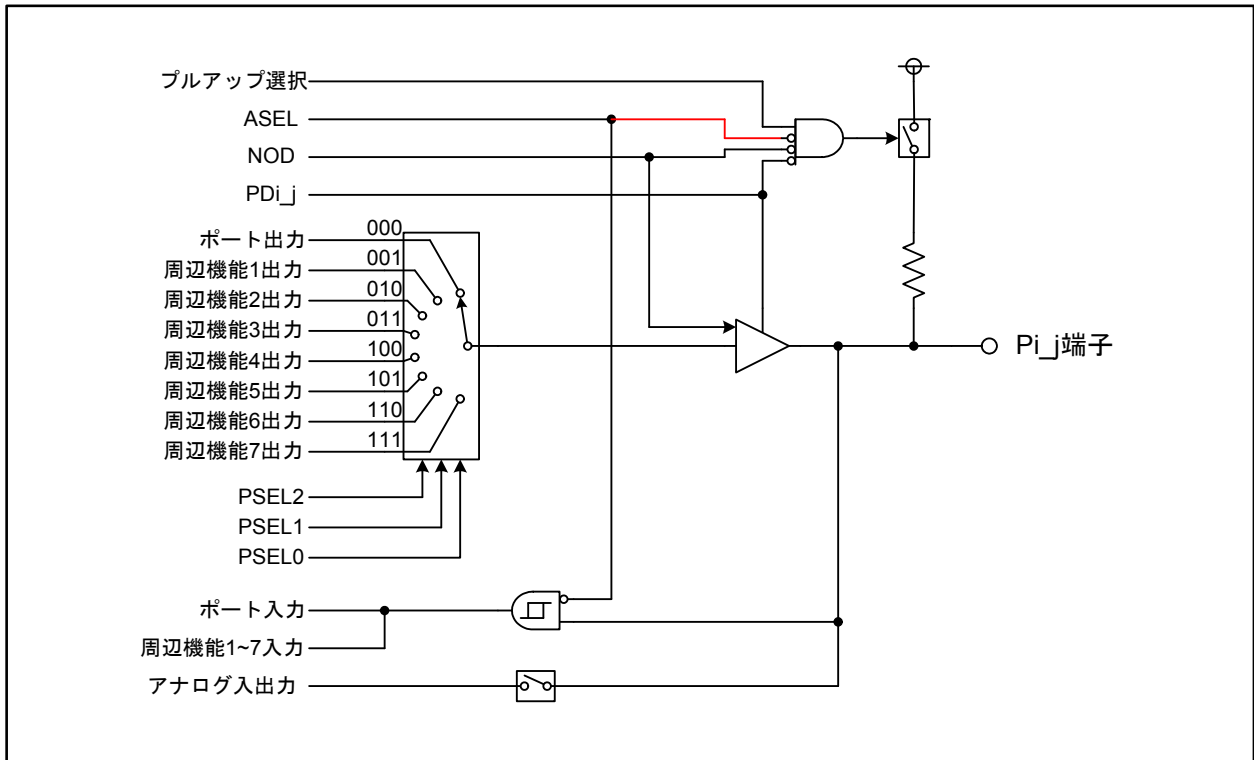


図26.1 入出力端子ブロック図(代表例) (i=0~15、j=0~7)

【正】

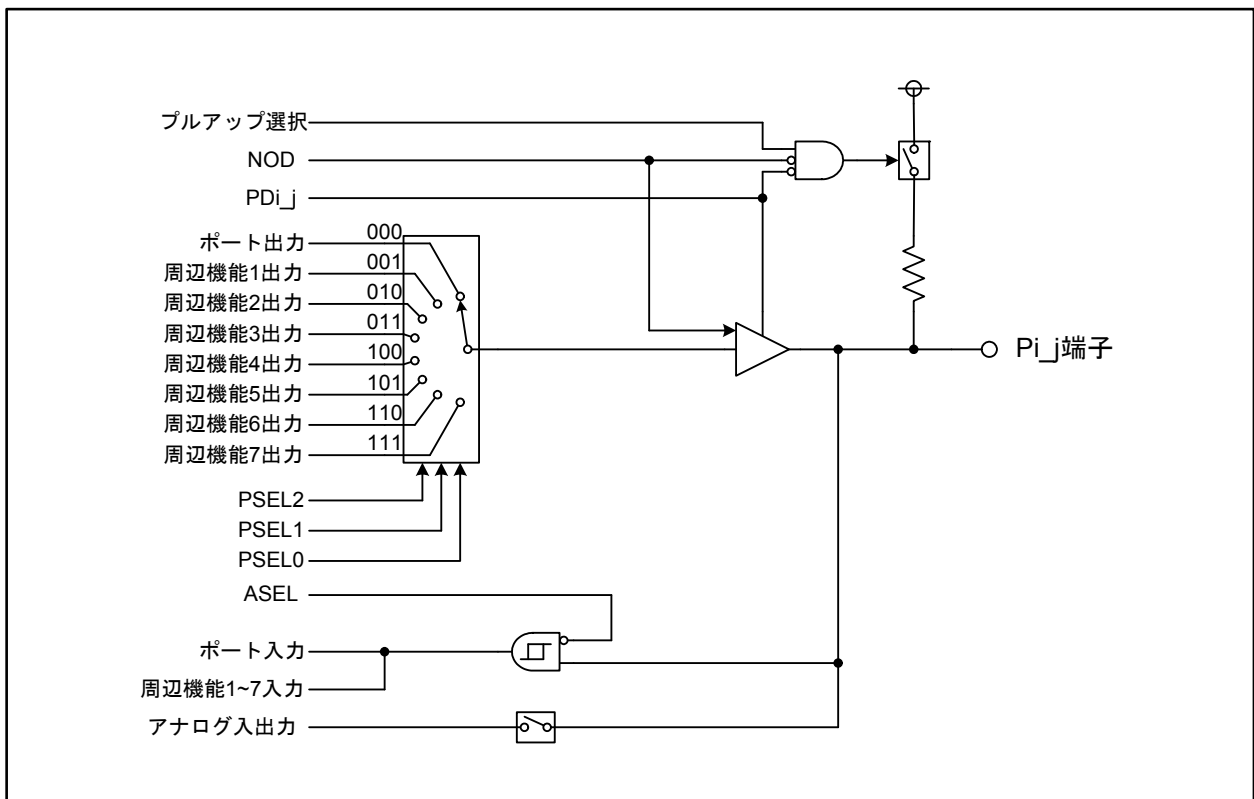


図26.1 入出力端子ブロック図(代表例) (i=0~15、j=0~7)

•Page 533 of 616

表27.8のメモリ拡張モードの制限事項を以下のとおり訂正いたします。

【誤】

表 27.8 CPU動作モードとフラッシュメモリ書き換え

項目	CPU動作モード	
	シングルチップモード	メモリ拡張モード
CB01レジスタ	00hのまま変更しないでください	04h~F8hの範囲で、かつCB12レジスタの設定値より大きい値を設定してください
CB12レジスタ	00hのまま変更しないでください	03h~F7hの範囲で、かつCB23レジスタの設定値より大きくCB01レジスタの設定値より小さい値を設定してください
CB23レジスタ	00hのまま変更しないでください	02h~F6hの範囲で、かつCB12レジスタの設定値より小さい値を設定してください

【正】

表 27.8 CPU動作モードとフラッシュメモリ書き換え

項目	CPU動作モード	
	シングルチップモード	メモリ拡張モード
CB01レジスタ	00hのまま変更しないでください	02h~F8hの範囲で、かつCB12レジスタの設定値以上の値を設定してください
CB12レジスタ	00hのまま変更しないでください	02h~F8hの範囲で、かつCB23レジスタの設定値以上、CB01レジスタの設定値以下の値を設定してください
CB23レジスタ	00hのまま変更しないでください	02h~F8hの範囲で、かつCB12レジスタの設定値以下の値を設定してください

•Page 564, 577 of 616

表28.16、表28.42のヒステリシスの項目の信号線名を以下のとおり訂正いたします。

【誤】

HOLD, RDY, NMI, INT0~INT8, KI0~KI3, TA0IN~TA4IN, TA0OUT~TA4OUT, TB0IN~TB5IN, CTS0~CTS8, CLK0~CLK8, RXD0~RXD8, SCL0~SCL6, SDA0~SDA6, SS0~SS6, SRXD0~SRXD6, ADTRG, IIO0_0~IIO0_7, IIO1_0~IIO1_7, UD0A, UD0B, UD1A, UD1B, ISCLK2, ISRXD2, IEIN, CAN0IN, CAN1IN, CAN0WU, CAN1WU (注1)

【正】

HOLD, RDY, NMI, INT0~INT8, KI0~KI3, TA0IN~TA4IN, TA0OUT~TA4OUT, TB0IN~TB5IN, CTS0~CTS8, CLK0~CLK8, RXD0~RXD10, SCL0~SCL6, SDA0~SDA6, SS0~SS6, SRXD0~SRXD6, ADTRG, IIO0_0~IIO0_7, IIO1_0~IIO1_7, UD0A, UD0B, UD1A, UD1B, ISCLK2, ISRXD2, IEIN, MSCL, MSDA, CAN0IN, CAN1IN, CAN0WU, CAN1WU (注1)

以上